

農業と様々な仕事を組み合わせた暮らしについてのアンケート調査（自ら営む農業以外の仕事について）

- 自ら営む農業以外の仕事の数について、1つとの回答が最も多い（約7割）が、2つ以上との回答者も約3割。
- 自ら営む農業以外の仕事のうち、最も所得の多い仕事の年間所得について、60%強が400万円未満と回答。

【表4】自ら営む農業以外の仕事の数（N=145）

仕事の数	人数
1	100
2	27
3	10
4	3
5	3
6	1
7	0
8	1

自ら営む農業以外の仕事が1つの者
⇒100名(69.0%)

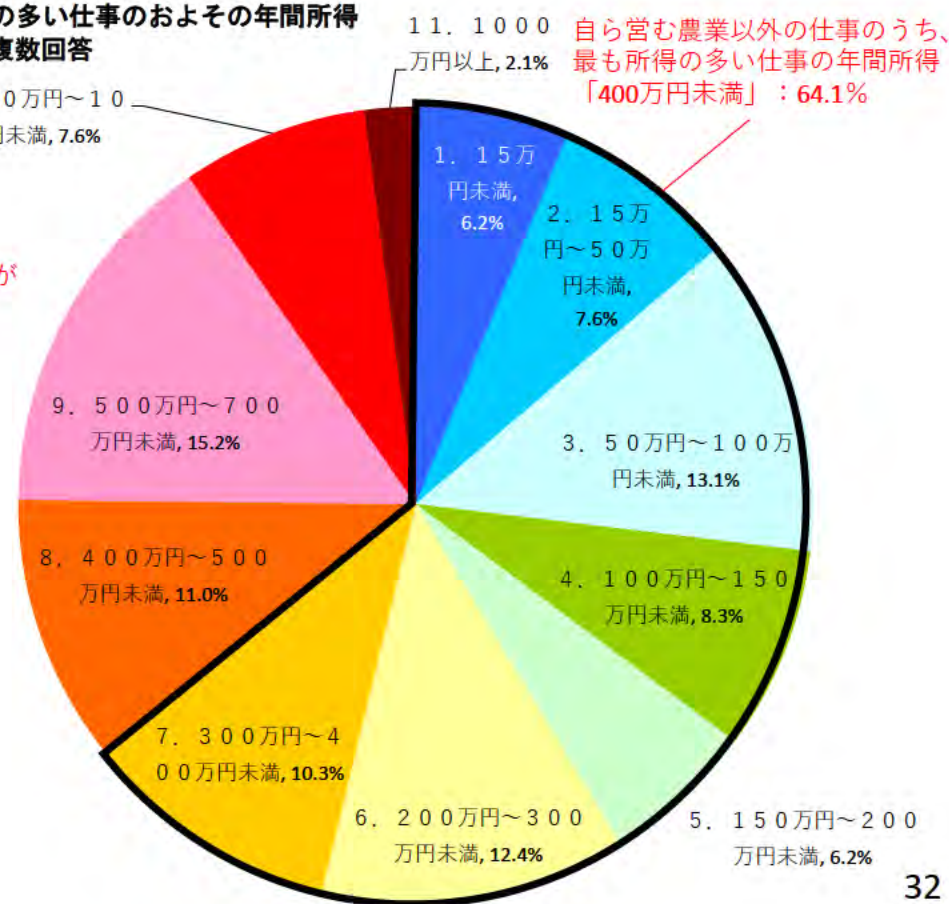
自ら営む農業以外の仕事が複数（2つ以上）の者
⇒45名(31.0%)

職業、勤務先の例

- ・会社員
- ・公務員
- ・福祉施設
- ・観光農園
- ・直売所
- ・民泊、ゲストハウス
- ・執筆業
- ・会社経営
- ・無人ヘリオペレーター
- ・手芸作家
- ・芸術家

等

【表5】自ら営む農業以外の仕事のうち、最も所得の多い仕事のおよその年間所得（N=145※複数回答）



1－（3） 新型コロナウイルスの影響

新型コロナウイルス感染症への対応

(第1回検討会資料より)

「新しい生活様式」の実践例 (2020年(令和2年)5月4日 新型コロナウイルス感染症専門家会議提出)

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本: ①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- ☐ 人との間隔は、できるだけ2m(最低1m)空ける。
- ☐ 遊びにいくなら屋内より屋外を選ぶ。
- ☐ 会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
- ☐ 外出時、屋内にいるときや会話をするときは、症状がなくてもマスクを着用
- ☐ 家に帰ったらまず手や顔を洗う。できるだけすぐに着替える。シャワーを浴びる
- ☐ 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う(手指消毒薬の使用も可)

※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- ☐ 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- ☐ 帰省や旅行はひかえめに。出張はやむを得ない場合に。
- ☐ 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。
- ☐ 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的な生活様式

- ☐ まめに手洗い・手指消毒
- ☐ 咳エチケットの徹底
- ☐ こまめに換気
- ☐ 身体的距離の確保
- ☐ 「3密」の回避(密集、密接、密閉)
- ☐ 毎朝で体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



(3) 日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- ☐ 通販も利用
- ☐ 1人または少人数ですいた時間に
- ☐ 電子決済の利用
- ☐ 計画をたてて素早く済ます
- ☐ サンプルなど展示品への接触は控えめに
- ☐ レジに並ぶときは、前後にスペース

娯楽、スポーツ等

- ☐ 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- ☐ 筋トレやヨガは自宅で動画を活用
- ☐ ジョギングは少人数で
- ☐ すれ違うときは距離をとるマナー
- ☐ 予約制を利用してゆったりと
- ☐ 狭い部屋での長居は無用
- ☐ 歌や応援は、十分な距離かオンライン

公共交通機関の利用

- ☐ 会話は控えめに
- ☐ 混んでいる時間帯は避けて
- ☐ 徒歩や自転車利用も併用する

食事

- ☐ 持ち帰りや出前、デリバリーも
- ☐ 屋外空間で気持ちよく
- ☐ 大皿は避けて、料理は個々に
- ☐ 対面ではなく横並びに座ろう
- ☐ 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- ☐ お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

冠婚葬祭などの親族行事

- ☐ 多人数での会食は避けて
- ☐ 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

(4) 働き方の新しいスタイル

- ☐ テレワークやローテーション勤務
- ☐ 時差出勤でゆったりと
- ☐ オフィスはひろびろと
- ☐ 会議はオンライン
- ☐ 名刺交換はオンライン
- ☐ 対面での打合せは換気とマスク

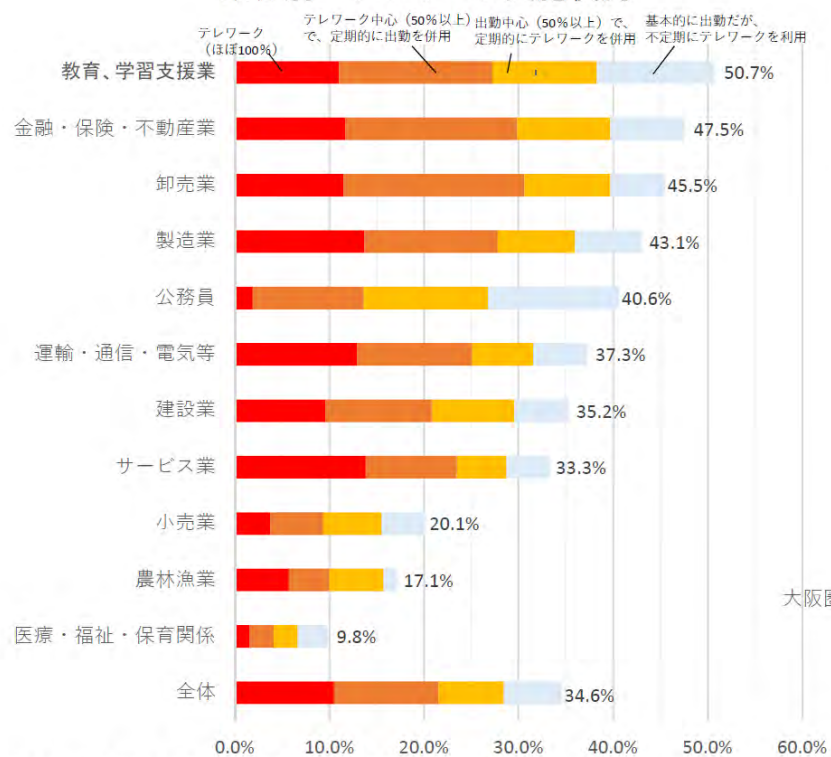
コロナ禍におけるテレワークの利用状況①（業種・雇用形態・地域別）

○ テレワークの実施率は、業種別、雇用形態別、地域別で大きく異なる。

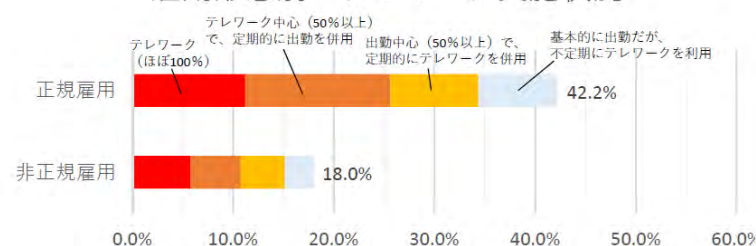
◆質問：今回の感染症の影響下において、経験した働き方を全て回答してください。

回答者割合	テレワーク (ほぼ100%)	テレワーク中心 (50%以上)	定期的にテレワーク (出勤中心： 50%以上)	基本的に出勤 (不定期にテレワーク)	週4日、週3日などの 勤務日制限	時差出勤やフレックス タイムによる勤務	特別休暇取得など による勤務時間縮減	その他	いずれも実施していない
全体	10.5%	11.0%	6.9%	6.1%	11.2%	9.3%	12.6%	3.5%	41.0%

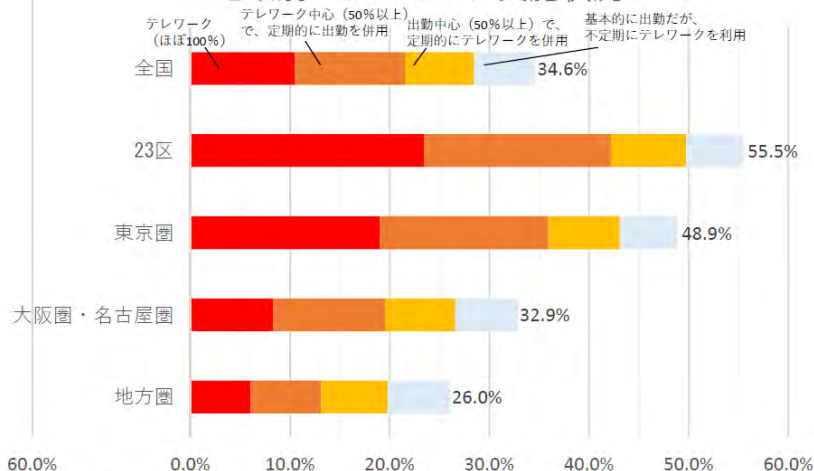
業種別 テレワーク実施状況



雇用形態別 テレワーク実施状況



地域別 テレワーク実施状況



(備考) ・東京圏：東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県
・大阪圏：大阪府、京都府、兵庫県、奈良県

・名古屋圏：愛知県、三重県、岐阜県
・地方圏：三大都市圏以外の北海道と36県

15

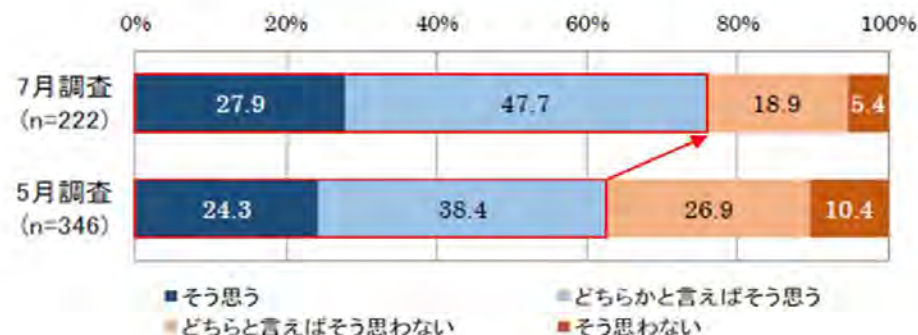
(出典) 内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」(令和2年6月21日)資料

35

コロナ禍におけるテレワークの利用状況②（テレワーク継続の意向と課題）

- 今後、新型コロナウイルス禍が終息した後も、テレワークを希望する割合は、増加傾向にある。

■ 今後コロナ禍が終息した場合のテレワーク利用の希望について



■ 調査概要

調査対象：20 歳以上のわが国の雇用者（就業者から自営業者、家族従業者等を除く）
1,100 名。

※株式会社クロス・マーケティングのモニターを利用。総務省「労働力調査」の結果に基づいて、性・年代別にサンプルを割り当てて回収。

調査期間：2020 年7 月6 日(月)～7 日(火)

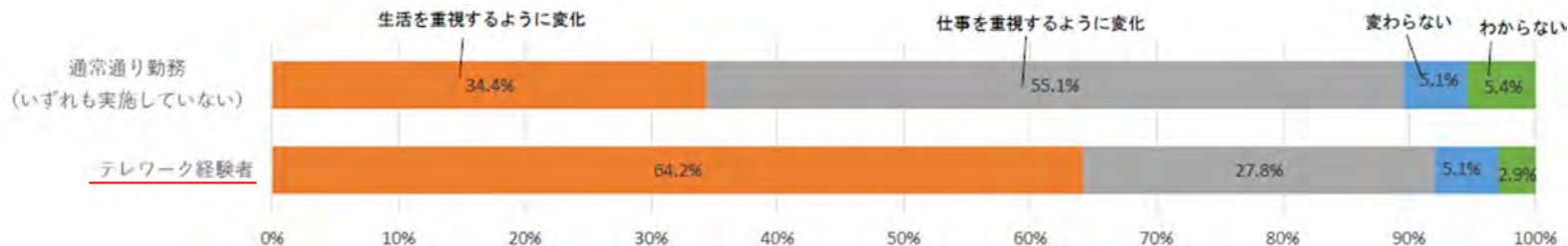
※本調査は本年5 月11～13 日に実施した調査の継続調査であり、主要設問は前回調査を踏襲する一方、一部の設問を新設・削除している。サンプル数及び性・年代別の割り当て方法は前回調査と同じである。

（出典）日本生産性本部「第2回働く人の意識に関する調査 調査結果レポート」

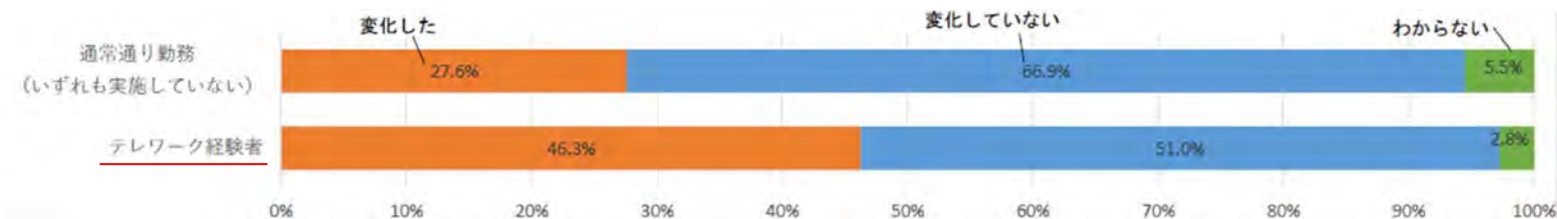
コロナ禍におけるテレワークの利用状況③（テレワークによる意識変化）

○ テレワーク経験者は、ワークライフバランス、地方移住、職業選択・副業等に関する意識が変化した割合が高い。

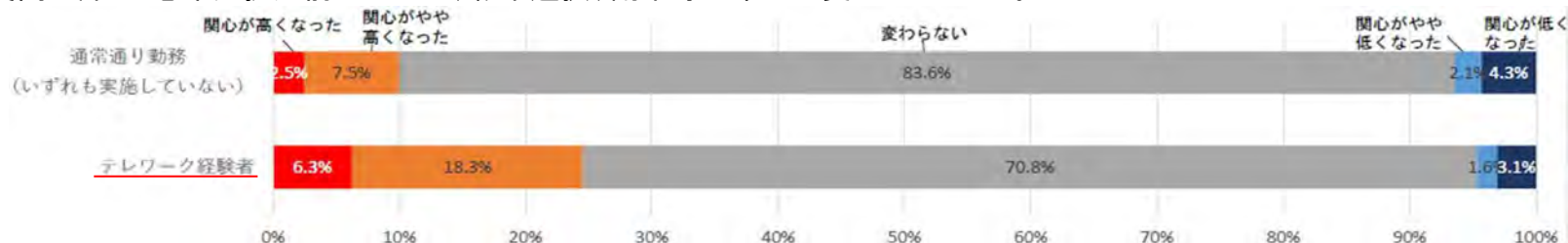
◆ 質問：今回の感染症拡大前に比べて、ご自身の「仕事と生活のどちらを重視したいか」という意識に変化はありましたか。



◆ 質問：今回の感染症の影響下において、地方移住への関心に変化はありましたか。



◆ 質問：今回の感染症拡大前に比べて、職業選択、副業等の希望は変化しましたか。

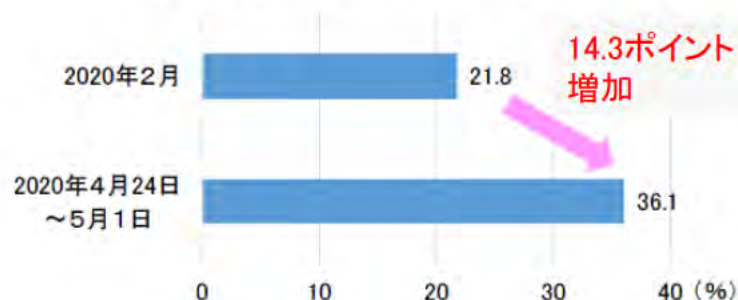


（出典）内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」（令和2年6月21日）資料

地方移住への関心の更なる高まり①

- 20歳代のU・Iターンや地方での転職希望について、2020年4～5月時点では、同年2月時点と比較すると14.3ポイント増加。主な理由として、「都市部で働くことにリスクを感じた」「テレワークで場所を選ばず仕事ができる」といったことが挙げられている。

図6 20代のU・Iターンや地方での転職希望
～2月と比べて地方での転職希望者が増加～



Uターンや地方での転職を希望する理由(20代)
(回答割合が高い順)

- 地元に戻りたいから
- 都市部で働くことにリスクを感じたから
- 地元に貢献する仕事をしたいと思ったから
- テレワークで場所を選ばず仕事ができることが分かったから

(備考) 学情「Re就活」ウェブ調査により作成。調査対象者は20代専門転職サイト「Re就活」へのサイト来訪者。有効回答数361名。転職を希望する理由は上位4つを記載。

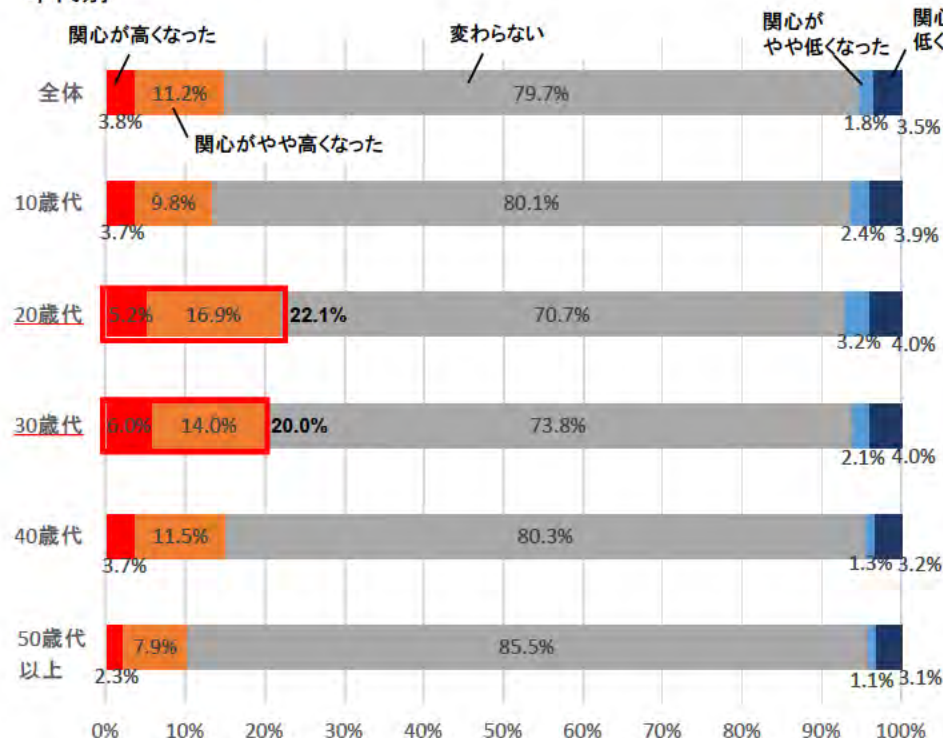
(出典) 内閣府「経済財政諮問会議」(令和2年5月29日) 資料

地方移住への関心の更なる高まり②

○ 三大都市圏居住者のうち、年代別では20～30歳代、地域別では東京都23区に住む人の地方移住への関心が高まっている。

◆ 質問：今回の感染症の影響下において、地方移住への関心に変化はありましたか。（対象：三大都市圏居住者）

年代別



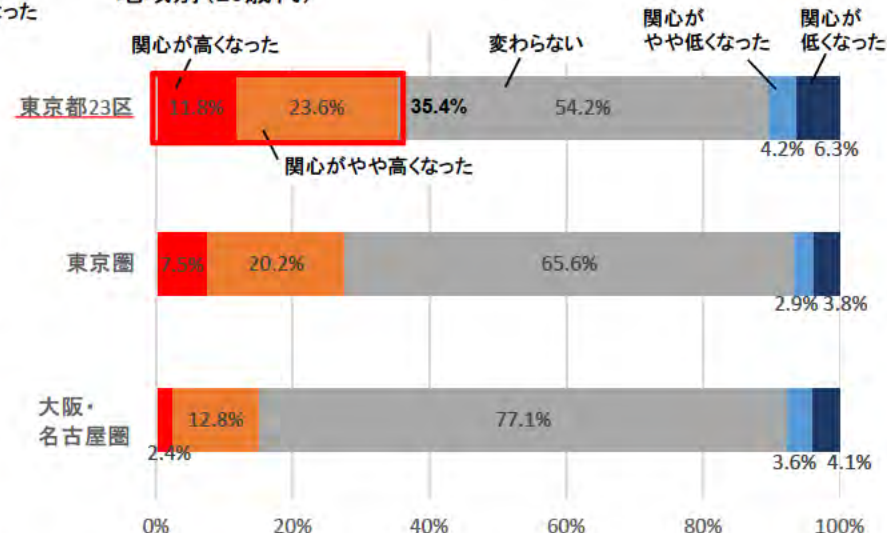
備考：三大都市圏とは、東京圏、名古屋圏、大阪圏の1都2府7県

○ 東京圏：東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県

○ 名古屋圏：愛知県、三重県、岐阜県

○ 大阪圏：大阪府、京都府、兵庫県、奈良県

地域別（20歳代）



■ 調査概要

○ 調査方法：インターネット調査（国内居住のインターネットパネル登録モニター）

○ 回収数：10,128

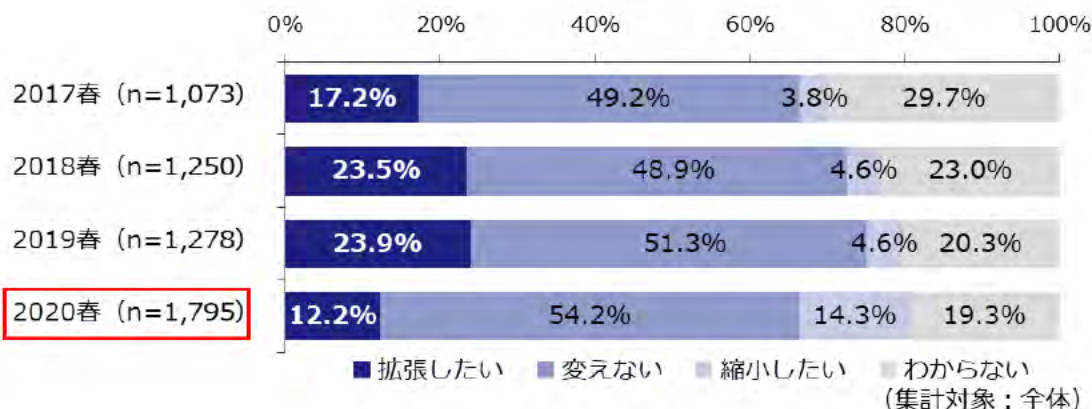
○ 調査期間：5月25日～6月5日

（5月25日～29日に半数を回収し、6月1日～5日に残りの半数を回収）

（出典）内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」（令和2年6月21日）資料

都市圏のオフィス需要の変化

- コロナ禍で在宅勤務が拡大したことに伴い、東京都心ではオフィスの空室率が増加。
- 今後2～3年程度先までにオフィス面積を「縮小したい」と考える企業は昨年から約10ポイント増え14.3%と、「拡張したい」企業12.2%を上回り、2016年秋の調査開始以降初めて縮小意向が拡張意向を上回った。

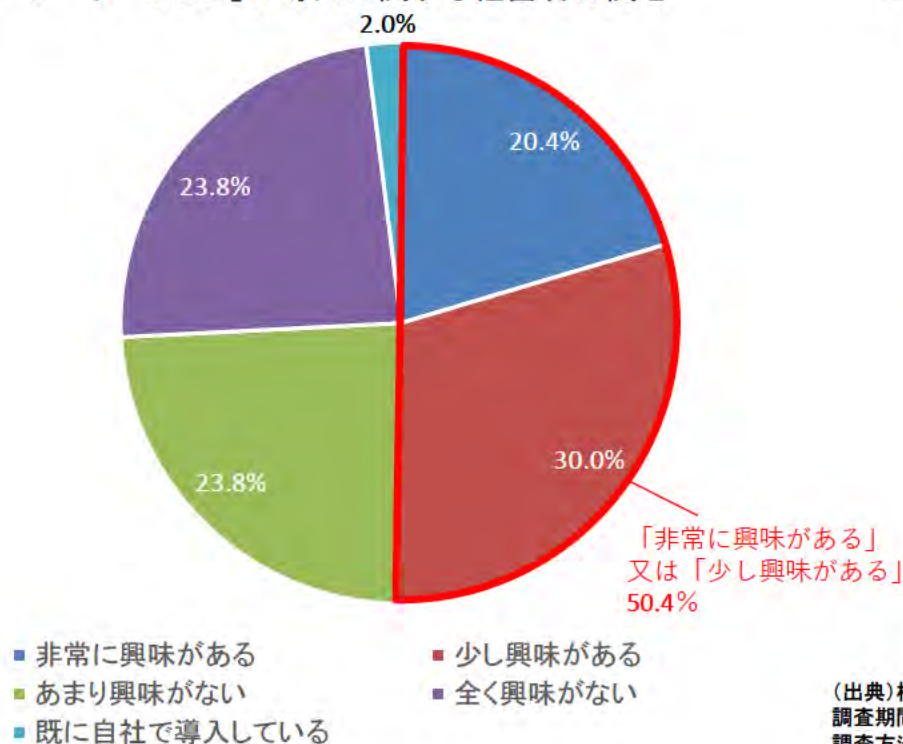


(出典)ザイマックス総研 大都市圏オフィス需要調査2020春(6月実施)

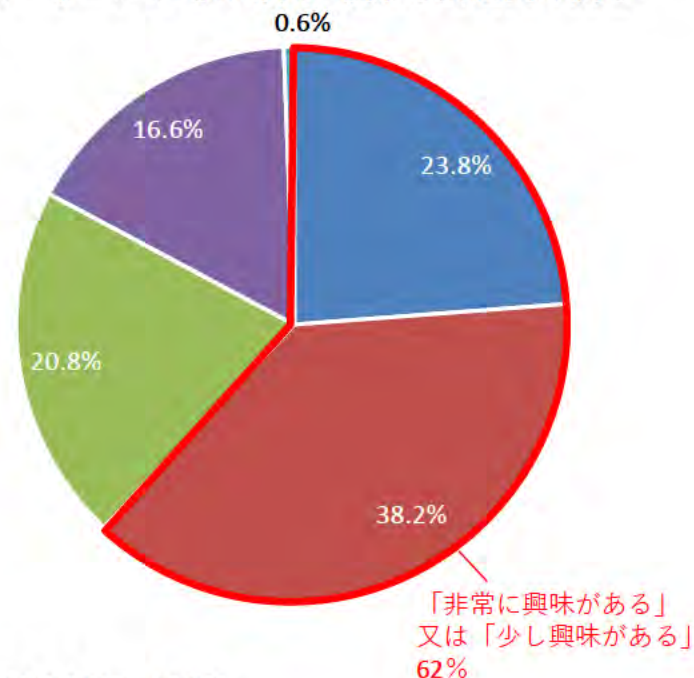
ワーケーション導入への関心

- 「ワーケーション」とは、国内外のリゾート地や帰省先など、休暇中の旅先で仕事をするテレワークのこと(国土交通省「国土交通白書2018」より)。
- 経営者の半数以上が「自社での導入に興味がある」、テレワークを実践する会社員のうち6割以上が「ワーケーションの取組に興味がある」と回答。

○「ワーケーション」の導入に関する経営者の関心



○「ワーケーション」の導入に関する会社員の関心



(出典)株式会社日本旅行による調査
調査期間:2020年8月13日~8月18日
調査方法:インターネット調査
有効回答:テレワーク導入企業の会社員332名,テレワーク導入企業の経営者323名
※「ワーケーション」とは、リゾート地や地方等の普段の職場とは異なる場所で働きながら休暇取得等を行う仕組み

ワーケーション拡大に向けた取組

○ コロナの影響を受け、農泊、森林サービス、国立・国定公園等を活用し、各省がワーケーション拡大に向けた施策を推進。

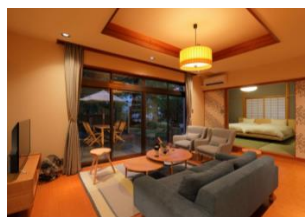
【農泊によるワーケーションの推進（農林水産省）】

農泊地域におけるワーケーション事例 <蔵王農泊振興協議会（宮城県蔵王町）>

- ・1棟貸し宿泊施設は、無線LANを完備し、ワーケーションに適した宿泊施設。
- ・コロナ禍の状況の中で、これまでワーケーション目的で6組を受入。（R2年4月～R2年8月）
- ・宿泊者は、長期滞在し、レジャーを楽しみつつ、リモートワークを実施。



外観



内装（仕事場）

【森林サービス産業によるワーケーションの推進（林野庁）】

長野県信濃町での取組事例

森林セラピーなどを取り入れたプログラム等により、「働き方改革」などの企業の経営課題解決を支援する貸切型のリモートワーク施設（施設名：ノマドワークセンター）が2019年5月にオープン



画像引用元：「信濃町ノマドワークセンター」公式サイト

【国立・国定公園、温泉地でのワーケーションの推進（環境省）】

① キャンプ場でのワーケーションの実施



キャンプ場でのワーケーション



子供向けプログラム

② 旅館等でのワーケーションの実施



南紀白浜（白浜町）



鉄輪温泉
（別府市）



鳴子温泉郷
（大崎市）

◆ 国立・国定公園、国民保養温泉地のキャンプ場・旅館・ホテル等の事業者、DMO、地域協議会等に対し、以下について支援する。

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| ① ワーケーションツアー等の企画、実施 | ② 子供向けプログラムの企画・実施 |
| ③ プロモーションの実施 | ④ ワーケーションのためのWi-Fi等の環境整備 |